

銀漢亭日録



伊藤伊那男

7月7日(金) ▼浅学非才にしてただ元気に七十四歳となる。この日晴れるのは珍しいこと。数句会の選句。十五時、夕焼け酒場。清人さん持ち込みの海鞘、鮪の処理など。飲み始める。井蛙さんからハワイ土産のアロハシャツ、光江さんからBEAMSのシャツなど戴く。まほさんから面白グッズ。他。「大倉句会」の方々があとから参加してくださり、四十名近くの誕生会となる。十一時、少し前におひらき。感謝！

8日(土) ▼「あ・ん・ど・うクリニック」。NHK俳句「私の第一句集」校正。札状、通信など。昨日の酒少々残る。夜、ステーキ。モモ肉にて薄切りに。

9日(日) ▼午後、日本橋「ここ滋賀」にて「てふてふ句会」。北軽井沢の山崎ちづ子、北川京子さん来てくださる。あと近くの居酒屋で親睦会。東京駅地下でも、もう一軒。

10日(月) ▼農家の野菜買う。モロヘイヤが出る。孫の好物。調布の講話の芭蕉についてのレジメ作成。「りんどう」の藤岡筑郎先生、十月に百歳を迎えられるとて一句求められる。(一望にして白ほどの青嶺かな)。

11日(火) ▼おくらの煮びたし、甘唐辛炒めなど。「銀漢」九月号のエッセイなど。夜、発行所にて「火の会」十一人。あと餃子舗。

12日(水) ▼農家の野菜買う。甘唐辛子を焼き浸し。いんげん茹でる。「銀漢」九月号のエッセイなど書き上げる。

13日(木) ▼「銀漢夏の全国俳句大会」応募四百七十六句の選。染筆を大野田さんに送る。夜、野菜サラダ、練り物など。

む。十九時過ぎ、「味どころ しん」。鰻のおとし、造り、ぐじ。まな鰻の一塩。その他佳品。凌雲君途中で帰る。

24日(月) ▼朝から暑い。八時発。鉾町の巡行を見る。市庁舎前の籤改め、河原町の巡行。まほ、政さんと会。昼、先斗町「まめ八」にて会食と七句出し句会。凌雲君も合流。あと「たつみ」。鰻のおとし、海老天、伏見唐辛子他、佳品。実にいい居酒屋。あと「京極スタンド」。錦市場の祭衆と話。以上で旅の終わりとする。

25日(火) ▼雑務。夜、「雪月花」。清人さん、敦子、近恵さん。小石さんの日。

26日(水) ▼十一時、唐木田駅に兄夫婦と日野の姉と待ち合わせ。「和食まかど」という店で昼食。実にうまい定食屋。あと兄の家。兄夫婦が若い頃留学していたドイツに五十年振りの旅をしたとて、その話を聞く会。自作の野菜の料理など佳し。野菜の土産沢山。

28日(金) ▼午前中で「銀漢」九月号の選句稿を各担当に投函。午後、選評を書き、投函。焼き茄子の煮浸し、イカ人参(福島で覚えた)。

29日(土) ▼昼、小諸着。四年振りの第十五回「こもろ日盛俳句祭」に。まずは「刻」の蕎麦。相盛り。十三時、与良の「与良館」にて五句出し句会。題は「片陰」。十一人。筑紫磐井さんの講演後バーティイ。あと昼に頼んでおいた「刻」へ。井蛙、羽久衣、淳子さん。「旅籠 つるやホテル」に投宿。近くの「居酒屋 寅さん」という店。渥美清から店名を買ったと。同年の女将。

30日(日) ▼十一時までホテル。スーパーマーケット、喫茶店、図書館と涼しい所を渡り歩く。十三時から市民交流センターで句会。題は「瓜」。終わって駅前「遠州家」に井蛙、羽久衣、淳子、「ホトトギス」合宿あとの阪西敦子、相沢文子さんと落ち合い酒盛り。鯉

15日(土) ▼十一時、日本橋「吉」にて纏句会九人。あと五人で近くの店。ワイン少々。それでもうぐつたり。

16日(日) ▼午後、杏一家来宅。家族十二人揃い、私の誕生祝いをしてくれる。庭でBBQパーティー。私は野菜物数種類を作る。

17日(月) ▼「俳句てふてふ」の「俳句万華鏡」に中村草田男についてのエッセイ送る。

18日(火) ▼数句会の選句。手が空いたので関東城跡巡りの記録の整理。茄子の煮浸し。豚汁。

19日(水) ▼十七時、「夕焼け酒場」で「三水会」八人。

20日(木) ▼十時、三田専売会館にて「丘の会」幹事会。午後、句会。十八時過ぎから「銀漢句会」。あと居酒屋で親睦会。今日は句会のダブルヘッダー。

21日(金) ▼梅雨明ながら梅漬を三昼夜干し、取入れ。十四時、調布にて俳句講話。あと宝田さん、竹内夫妻と茶話会。来期も講話継続の依頼あり。

22日(土) ▼八時過ぎの新幹線で米原。乗り継いで守山。井蛙、いづみ、小石さん(祇園祭メンバー)。レンタカーで信楽宮跡へ。朝集殿跡。陶芸の里散策は五十年前訪問の時は発掘されていなかった。学生時代に作陶の合宿をした。牛の置物購入。水口岡山城は登り口までとし、三上山の御上神社参拝。「ベッセルイン滋賀守山駅前」に投宿。近くの「魚丸守山店」。

23日(日) ▼九時発。琵琶湖大橋を渡り、堅田、浮御堂へ。暑い。湖の風景佳し。戻って県立琵琶湖博物館。湖魚の展示など内容豊か。草津宿本陣、うばがもち。レンタカーを返し、十五時過ぎの電車で京都、烏丸御池の「ホテルギンモンド京都」へ投宿。祇園祭後祭の宵山へ。鉾町で中島凌雲君と待ち合わせ。錦市場にて生牡蠣で少々飲

濃！で旅を終える。

31日(月) ▼彗星集の選、選評を理恵さんに送り、九月号終了。ひと段落付いたので、新宿で買い物、思い出横丁他を少々飲み歩く。七月も終わり。

8月1日(火) ▼久々、農家へ。野菜を買う。二十五代続くこの家は、昨日今日がお盆と。十月号のエッセイ一本書く。第五十八回「子規顕彰全国俳句大会」の選句に入る。応募句八千五百句余。

2日(水) ▼十七時半、毎日新聞「俳句てふてふ」の今井竜さん、上司の高塚保氏の誘いで神保町「ランチョン」。当方、いづみさん。あと「なごみ」に寄る。大将元氣。

5日(土) ▼夕方、井の頭線富士見ヶ丘駅。三十年暮らした街。次女一家と会い、夏祭を楽しむ。阿波踊が二連出る。懐かしく商店街を散策。帰路、下北沢の盆踊も見て、成城に戻り「街かど酒場さんたろう」で小酌。この頃の外出は下駄。

8日(火) ▼夜、発行所にて「火の会」十一人。あと二軒ほど飲み歩く。終電で新百合ヶ丘まで乗り越し。とほほ……。

9日(水) ▼十三時、水道橋「台湾風中華居酒屋 青龍門 東京ドームシティ 水道橋店」。「梶の葉句会」の食事会に呼んでいただく。午前中にあった句会の選句。食事のあとスタバで茶話会。突然の白雨。

10日(木) ▼農家の野菜買う。T氏句集第二稿点検。もう一人のT氏句集初稿点検。「俳壇」十一月号に十句。「子規顕彰全国俳句大会」の選句、選評送付(六、七日とはほぼ詰詰の一仕事であった)。「銀漢」十月号のエッセイ等。空芯菜炒め、モロヘイヤと納豆。谷中、巾着茄子の八丁味噌炒め。